

現場説明書（技術的事項）

工事名 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事

（●印を適用）

1. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」

第9条第1項に規定する対象工事

○ 該当する

● 該当しない

2. 別途工事

なし

3. 現場の状況

設計図のとおり

4. 留意事項

① 本工事受注者は、地元企業・地場製品の活用に努めてください。

② 工事中は学校運営と同時使用となるため、仮囲い等を設置し、事故の無いよう十分注意してください。

③ 工事期間中は、周辺地域、生徒、職員及び第三者の安全に細心の注意を払い、危険の無いよう対策を講じてください。構内管理については学校管理者との協議、調整を十分に行ってください。

④ 工事車両の出入り口と生徒、学校関係者の出入り口が重複するため、大型車等の出入りには必要に応じて交通誘導員を配置し、安全管理に努めてください。

⑤ 工事関係車両の駐車場は、学校管理者と協議が必要です。

⑥ 騒音・粉塵が発生する作業は、学校管理者と事前協議が必要です。

⑦ 解体・撤去物以外のものに損傷を与えないように対策を講じてください。

⑧ この工事は、建設リサイクル法の対象工事に該当しませんが、特定建設資材の再資源化に努めるとともに、産業廃棄物は適切に処理してください。

⑨ 実施工程表を契約後14日以内に提出するとともに、速やかに承認図、施工計画書等の承諾を受けてください。

⑩ 現場着手は学校管理者と協議の上、着手としてください。

⑪ 夏休み期間は（7/21～8/24）です。

福山市立松永中学校体育倉庫改築工事

意 匠		
N0	図名面	縮尺
00	表紙・図面リスト	
01	建築工事特記仕様書 No.1	
02	建築工事特記仕様書 No.2	
03	建築工事特記仕様書 No.3	
04	建築工事特記仕様書 No.4	
05	付近見取図 ・ 求積図 ・ 面積計算表	NO SCALE S=1/100
	外部・内部仕上表	
06	配置図 ・ 排水桝詳細図	S=1/1000 S=1/500 S=1/30
07	平面図 ・ 立面図 ・ 屋根伏図	S=1/100
08	平面詳細図 ・ 断面詳細図	S=1/50 S=1/30
09	天井伏図 ・ 展開図	S=1/100 S=1/50
10	建具表	S=1/100
11	部分詳細図	S=1/10
12	仮設計画図	S=1/1000 S=1/50

構 造		
N0	図名面	縮尺
S 01	構造特記仕様書	
S 02	鉄筋工事仕様書 No. 1	
S 03	鉄筋工事仕様書 No. 2	
S 04	断面図・軸組図	S=1/100
S 05	基礎伏図・屋根スラブ・梁伏図	S=1/100
	基礎配筋図・壁配筋図・壁梁配筋図	S=1/30
S 06	壁・屋根スラブ配筋図	S=1/30
S 07	軸組詳細図・壁配筋詳細図	S=1/50 S=1/30

福山市教育委員会事務局管理部施設課				2025年 5 月	
主務	課員	次長	課長補佐	施設課長	管理部長

													A2 : 100% A3 : 71%	
福山市教育委員会事務局管理部施設課	主務	課員	次長	課長補佐	施設課長	部長	〒721-0973 神竜建築設計事務所 福山市南蔵王町一丁目5番27号 一級建築士事務所所広島県知事登録 22 (1) 第0764号 TEL (084) 924-2073 FAX (084) 924-2215 一級建築士 登録 第67516号 山本 泰治		工 事 名 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事	図面名称	表紙 図面リスト	日 付 2025年	図面番号	
								縮 尺			5月	00		

A2 : 100%
A3 : 71%

福山市建築工事特記仕様書

I 工事概要

1. 工事名称

福山市立松永中学校体育倉庫改築工事

2. 工事場所

福山市松永町二丁目24番16号

3. 用途地域

第一種住居地域

4. 防火地域

・防火地域

・準防火地域

○指定なし（22条区域）

5. 工事種別

・新築

・増築

○改築

6. 敷地面積

15,635.03㎡

7. 建物概要

1) 構造

鉄筋コンクリート造平家建

2) 面積

建築面積 36.33（㎡）

延べ面積 36.33（㎡）

床面積	1階	36.33（㎡）	：
		：	：
		：	：
		：	：
		：	：
		：	：

3) 付属施設

8. 別途工事

・電気設備工事

・昇降機設備工事

・給排水衛生設備工事

・カーテン取付工事

・空調設備工事

・植栽工事

・ガス設備工事

・

※ 本工事の工期は設備工事の工期及び工事検査期間としての14日を含んでいる。

※ 契約締結後14日以内に実施工程表を提出する。

※ 本工事は、法定外の労災保険を見込んでいる。

II 建築工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「建築標準仕様書」という。）による。ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「建築改修標準仕様書」という。）による。

電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれ公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）による。

（1）官公署手続き

受注者は関係官公署への必要手続きを代行する。（官公署手続きは監督員の承諾後とする。）

（2）地元企業及び地場製品の活用

受注者は、地元企業及び地場製品の積極的な活用に努める。

（3）疑義に対する協議等

設計図書に定められた内容に疑義が生じた場合又は現場の納まり、取り合い等の関係で、設計図書によることが困難若しくは不都合が生じた場合は、監督員と協議する。

2. 特記仕様

（1）章、項目は番号に○印のついたものを適用する。

（2）特記事項は○印のついたものを適用する。

○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。

○印と※印のついた場合は共に適用する。

（3）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、「建築標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（4）材料および製造所等の記載順序は不同である。

3. 引渡し後、次に示す点検を行う。（○印のついたものを適用する。）

・引渡し後点検（第1次点検） 引渡しの概ね1年後

・引渡し後点検（第2次点検） 引渡しの概ね2年後

章 項 特記事項

⑧ 施工中の安全確保 (1.3.7)

○労働安全衛生法第30条第2項の規定に基づく指名

○有り

・無し (1.3.7)

工事中は、騒音、振動の発生、粉塵の飛散（散水）、道路の汚染等の防止に努めること。

※低騒音型・低振動型建設機械を使用すること（近隣住民の生活環境の保全の必要性がある場合）

・本工事は、交通誘導員として 人を見込んでいる。

交通誘導員の配置については、実施仮票（原本）および配置状況のわかる立会写真の撮影を行い監督員に提出する。

⑨ 発生材の処理 (1.3.11)

・引渡しを要するもの（ ） (1.3.11)

・現場において再利用を図るもの（ ） (1.3.11)

※ 再資源化を図るもの

・アスファルトコンクリート

○コンクリート

○木材

・コンクリート及び鉄からなる建設資材

※ 上記以外のものはすべて構外に搬出し、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という）、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（以下、「資源有効利用促進法」という）、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下、「廃棄物処理法」という）その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い適正に処理する。

※ 建設副産物情報交換システム（COBRIS）（財）日本建設情報総合センター

本工事は登録対象工事であるため、受注者は、施工計画時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの登録を行うものとする。

また、建設リサイクル法に規定する建設資材を搬入（搬出）する場合は、次表により計画書（実施書）を提出する。なお、これにより難い場合は、監督員と協議する。

	施工計画時	工事完了時
搬入	再生資源利用計画書	再生資源利用実施書
搬出	再生資源利用促進計画書	再生資源利用促進実施書

※ 本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物処理税が課税される。

なお、本工事で広島県産業廃棄物処理税相当額を含んでいる。

⑩ 建築材料等

建築材料の製造所、製品及び施工業者などは、特記されたもの又は同等のものとする。ただし、同等とする場合は、監督員の承諾を受ける。

また（社）公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出する。

国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号。「グリーン」(1.4.1)購入法」という）により、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。

材料の選定に当たっては、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。

本工事の施工に当たり、東洋ゴム化工品（株）又はニッタク化工品（株）で製造された製品や材料を用いる場合には、第三者機関による品質を証明する書類を提出すること。

11 特別な材料の工法

12 技能士 (1.5.2)

工事別	適用種別	工事別	適用種別

13 化学物質の濃度測定 (1.5.9)

受注者は、引渡し前に次の対象物質について室内空気中に含まれる濃度を測定し、(1.5.9)厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督員に報告する。

対象物質

・4項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン）

・5項目^(注)（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン）

・6項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン）^(注)

文部科学省の「学校環境衛生の基準」による。

測定方法

※ 計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。

対象室名

測定箇所数

14 アスベスト含有成形板の処理等

処理を行うアスベスト含有成形板の仕様及び部位

アスベスト含有成形板の仕様	使用部位
・石綿スレート	
・石綿セメント入り酸カルシウム板	
・その他（ ）	

※ 事前に施工調査等により広く確認を行う。

安全衛生管理

※ 石綿作業主任者

石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号。以下、「石綿則」という。）に基づき、石綿作業主任者を選定する。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者、又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

・除去作業者

アスベスト含有建材の除去に従事する作業者（以下「除去作業者」という。）は、石綿則に基づく特別の教育を受けた者とする。

・表示及び掲示

作業現場の見やすい場所に、石綿則第34条に基づく掲示をする。

除去作業者の呼吸用保護具・保護衣

・呼吸用保護具（国家検定合格品）

・R L 2又はR S 2

・

※ その他の仕様は建築改修標準仕様書による。（建築改修標準仕様書 9.1.5）

⑮ 工事及び完成写真

着手前・工事中写真

※ A 4判印刷、若しくはA 4判写真帳

完成時写真

※ アルバム（A 4判程度）

・写真帳

（検査後14日以内に提出する。）

原稿の提出

※ する（※ 完成時のみ）

・全て

・しない

（電子データ形式等は、監督員の指示による。）

⑯ 完成時の提出図書 (1.7.1～3)

速やかに次の図書を提出する。

※ 竣工図（※ 完成図

・承諾図

・施工図） (1.7.1)

・A 3判を2つ折りにして製本

部

部

部

○竣工図電子データ

一式（竣工図電子データ作成要領による。）

・C A Dデータ（媒体（C D－R等）、データ形式等は監督員の指示による。） (1.7.2)

保全に関する資料

部

部

部

⑰ 保証書

次の工事について保証書を提出する

工事区分	材料名	保証年限	備考
○防水工事	・アスファルト防水	10年	
	○改質アスファルト防水	10年	
	・合成高分子フルーフィング防水	10年	
	・塗膜防水	10年	
・屋根工事	・長尺金属板葺き	年	漏水の場合等
	・折板葺き	年	漏水の場合等
	・瓦葺き	年	漏水の場合等
・防錆工事		年	
・特殊床工事	・フローリング及び塗装	年	・7×6・ｽﾎﾟﾝｽ・FRP
・プール工事	・プール本体	年	
	・塗装（通常塗装の場合）	年	
・植栽工事	・活着	1年	枯死の場合

提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする

受注者は、次表に従い、情報共有システムを利用する。

金額	利用形態
設計金額3,500万円以上	発注者指定型
当初契約金額500万円以上	受注者希望型

発注者指定型の場合、システム利用料を見込んでいる。

本工事で利用する情報共有システム

＜広島県工事中情報共有システム＞ <http://www.hdoboku.or.jp/koujiyouhoushisutemu2.html>

受注者は、情報共有システムの利用の有無について、契約後すみやかに発注者にその旨を協議し、決定すること。

受注者は、情報共有システムを利用する場合、（一社）広島県土木協会に利用申込みを行い、利用料を支払うこと。

情報共有システムの利用は次によること。

○塩山市発注工事における情報共有システム利用実施要領（建築工事）

○情報共有システム利用手引（建築工事）

⑱ 施工図及び施工計画書

⑲ 情報共有システム

2 仮設工事

① 工事現場仮囲い

・ナイロンロープ張り

・木製仮囲い

○鋼製仮囲い

・ガードフェンス

2 監督員事務所 (2.3.1)

・設ける（㎡程度）

○設けない

・備品等（ ）

③ 受注者事務所等 (2.3.1)

○敷地内へ建てることのできる

・

④ 工事用水

構内既存の施設

・有償で利用できる（副メーター設置等）

○無償で利用できる

・利用できない

⑤ 工事用電力

構内既存の施設

・有償で利用できる

○無償で利用できる

・利用できない

6 引渡しまでの光熱水費

・本引込みより引渡しまでの基本料金

※ 受注者負担

・別途

・本引込みより引渡しまでの使用料金

※ 受注者負担

・別途

⑦ 安全対策

○工事中は生徒等

施設利用者の安全確保に努め仮囲い等の適切な措置を図る。

○敷地内の工作物は必要に応じて養生を行い、被害を及ぼした場合は受注者の責任において復旧する。(2.4)

⑧ 足場その他 (2.2.4)

※ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

⑨ 現況確認

○工事の着手に先立ち、関係者立会いのうえ図面に基づいて敷地と周辺の状況及び高低差などを確認する。

⑩ 土工事

① 埋戻し及び盛土 (3.2.3)

種別

・A種

※ B種

・C種

・D種

(表3.2.1)

② 建設発生の土の処理 (3.2.5)

※ 構外搬出適切処理（再資源化処理施設へ搬入する）

・構内指示の場所に敷きならし (3.2.5)

・構内指示の場所に堆積

・構外指示の場所に処分

処分先

※ 搬出先は、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、計量伝票等（原本）を監督員に提出する。

4 地業工事

5 鉄筋工事

6 コンクリート工事

7 防水工事

8 塗装工事

9 電気設備工事

10 機械設備工事

11 衛生設備工事

12 空調設備工事

13 照明設備工事

14 雑費工事

15 雑費工事

16 雑費工事

17 雑費工事

18 雑費工事

19 雑費工事

20 雑費工事

21 雑費工事

22 雑費工事

23 雑費工事

24 雑費工事

25 雑費工事

26 雑費工事

27 雑費工事

28 雑費工事

29 雑費工事

30 雑費工事

31 雑費工事

32 雑費工事

33 雑費工事

34 雑費工事

35 雑費工事

36 雑費工事

37 雑費工事

38 雑費工事

39 雑費工事

40 雑費工事

41 雑費工事

42 雑費工事

43 雑費工事

44 雑費工事

45 雑費工事

46 雑費工事

47 雑費工事

48 雑費工事

49 雑費工事

50 雑費工事

51 雑費工事

52 雑費工事

53 雑費工事

54 雑費工事

55 雑費工事

56 雑費工事

57 雑費工事

58 雑費工事

59 雑費工事

60 雑費工事

61 雑費工事

62 雑費工事

63 雑費工事

64 雑費工事

65 雑費工事

66 雑費工事

67 雑費工事

68 雑費工事

69 雑費工事

70 雑費工事

71 雑費工事

72 雑費工事

73 雑費工事

74 雑費工事

75 雑費工事

76 雑費工事

77 雑費工事

78 雑費工事

79 雑費工事

80 雑費工事

81 雑費工事

82 雑費工事

83 雑費工事

84 雑費工事

85 雑費工事

86 雑費工事

87 雑費工事

88 雑費工事

89 雑費工事

90 雑費工事

91 雑費工事

92 雑費工事

93 雑費工事

94 雑費工事

95 雑費工事

96 雑費工事

97 雑費工事

98 雑費工事

99 雑費工事

100 雑費工事

章 項 特記事項

① 適用基準等

○公共住宅建設工事共通仕様書（令和元年度版）

○建築工事標準詳細図 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 (令和4年版)

○建築構造設計基準及び解説 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 (平成22年版)

○建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）建設経済局建設課・住宅局建築指導課監修

○建築工事安全施工技術指針 建設大臣官庁官庁営繕部監修課長連発

・建築改修標準仕様書 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修（令和4年版）

○建築基準法、消防法、その他関係法令

・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律への対応

・建築物移動等円滑化誘導基準（認定）

② 監理(主任)技術者

受注者は、監理技術者及び主任技術者を建設業法により定め、工事現場内において工事名、工期、写真、所属会社名及び証明印の入った名札を着用する。

③ 工事実績情報の登録 (1.1.4)

※ 受注者は、次表に従い、工事実績情報を登録する。(1.1.4)

登録内容について、あらかじめ監督員の承諾を受けたのちに、次表の期間内に登録申請を行う。ただし、期間には、土曜日、日曜日、祝日、年末年始の閉庁日を除く。

請求金額	工事受注時	登録内容の変更時	工事完成時
500万円以上	契約後10日以内	変更契約後10日以内	工事完成後10日以内

変更登録は、工期、技術者等に変更が生じた場合に行う（請求代金のみ変更の場合、登録不要）

※ 登録後は速やかに登録されたことを証明する資料を監督員に提出する。

なお、変更時と工事完成時の間が10日に満たない場合は、変更時の提出を省略できる。（登録要）

4 別契約の関連工事との調整等 (1.1.7)

施工範囲 「工事区分表」による。

関連工事との調整

※ 別契約の関連工事受注者が足場などを使用する場合は無償とする。

※ 別契約の関連工事受注者と工程を含めた総合的な打合せを定期的に行い、監督員の（1.1.7）調整に協力し、当該工事関係者とともに円滑な施工に努める。

⑤ 施工管理 (1.3.1)

受注者は施工管理体制を確立し、品質、工程、安全等の施工管理を行う。(1.3.1)

※ 施工体制台帳（建設業法等に従って作成し、写しを提出する。） (1.1.5)

技術者台帳（施工体制台帳に添付）

監理技術者・主任技術者（下請を含む）及び専門技術者の写真、名前、生年月日、所属会社名を記載する。

※ 施工体系図（建設業法に基づき、当該現場の見やすい場所に掲示する。）

6 電気保安技術者 (1.3.3)

・適用する

・適用しない (1.3.3)

⑦ 施工条件 (1.3.5)

○作業時間は、原則午前8時から午後5時までとし、通学時間帯を考慮すること。(1.3.5)

○日曜日及び祝日に作業を行わないこと。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りではない。

記号・略号

(一 般)

B M ……ベンチマーク

G L ……基準地盤面

F L ……基準床面

W ……内法巾

H ……内法高

U P ……上がる

D N ……下がる

P S ……パイプスペース

D S ……ダクトスペース

E V ……エレベータ

(構造材料)

S R C ……鉄骨鉄筋コンクリート

P C ……プレキャストコンクリート

A L C ……軽量気泡コンクリート

C B ……コンクリートブロック

S ……鉄（鋼）

W ……木

L G S ……軽量形鋼

(建 具)

A D ……アルミ製ドア

A W ……アルミ製窓

A G ……アルミ製ガラリ

S D ……鋼製ドア

S W ……鋼製窓

S G ……鋼製ガラリ

S ……鋼製シャッター

S T D ……ステンレス製ドア

S T W ……ステンレス製ガラリ

S T S ……ステンレス製シャッター

W W ……木製窓

W G ……木製ガラリ

F ……ふすま

T D ……強化ガラス製ドア

T W ……強化ガラス製窓

A L ……アルミ製リンググリルシャッター

S L ……鋼製リンググリルシャッター

S T L ……ステンレス製リンググリルシャッター

S P ……鋼製間仕切

(左官関係)

（薄付け仕上塗材）

外装薄塗材 E ……外装合成樹脂エマルジョン系

内装薄塗材 E ……内装合成樹脂エマルジョン系

(厚付け仕上塗材)

外装厚塗材 E ……外装合成樹脂エマルジョン系

(塗装関係)

S O P ……合成樹脂顔料ペイント

C L ……クリアラッカー

N A D ……アクリル樹脂系非水分散形塗料

D P ……耐候性塗料

E P ……G ……つや有合成樹脂エマルジョンペイント

E P ……合成樹脂エマルジョンペイント

U C ……ウレタン樹脂ワニス

L E ……ラッカーエナメル塗料

O S ……オイルステイン

W P ……木材保護塗料

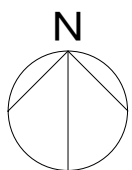
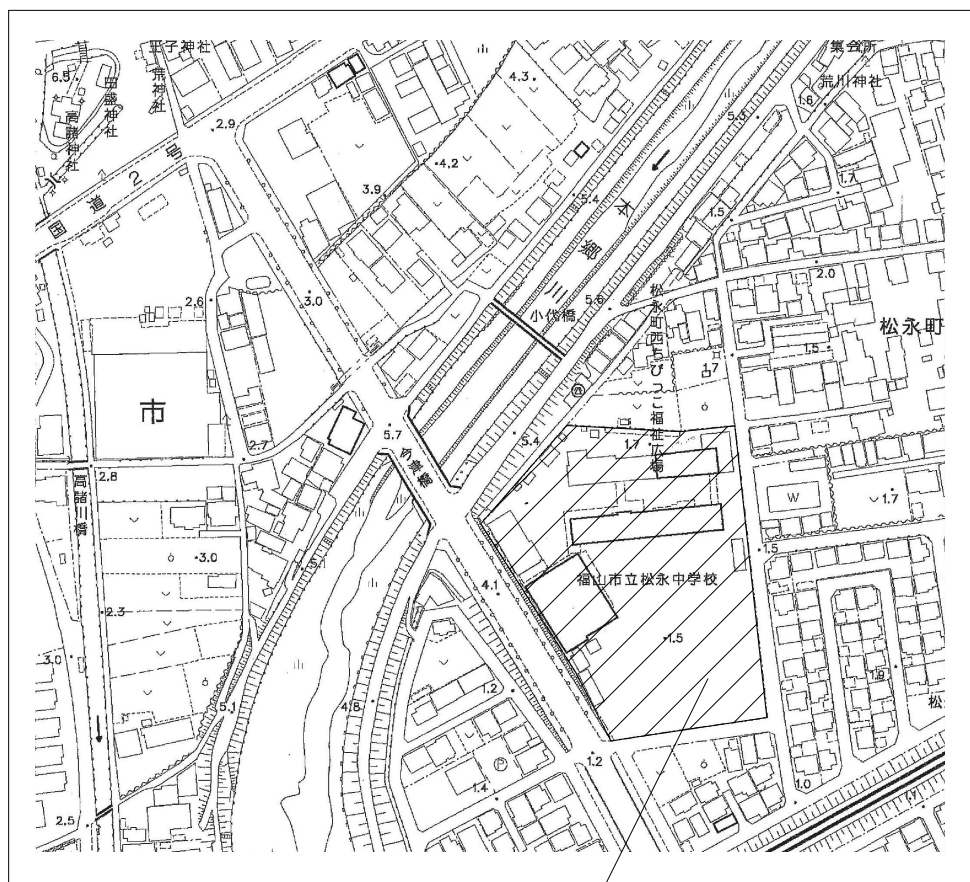
〒721-0973 福山市南蔵玉町一丁目5番27号 TEL (084) 924-2073 FAX (084) 924-2115 神電建築設計事務所 一級建築士事務所登録22(1) 第0764号 一級建築士 登録 第67156号 山本 泰治



福山市教育委員会事務局管理部施設課 設計 2025年 5月

工事名称 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事 図面名称 建築工事 特記仕様書 No. 1 図面No. 01

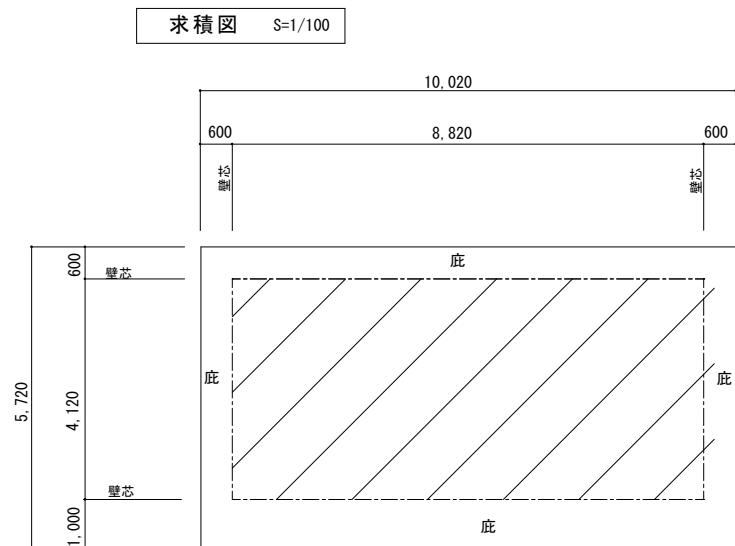
[illegible]



工事場所

福山市松永町二丁目24番16号

付近見取図 NO SCALE



面積計算表	
床 面積	$4.12 \times 8.82 = 36.3384 \text{ m}^2$
建築面積	$4.12 \times 8.82 = 36.3384 \text{ m}^2$

仕上表

外部仕上表

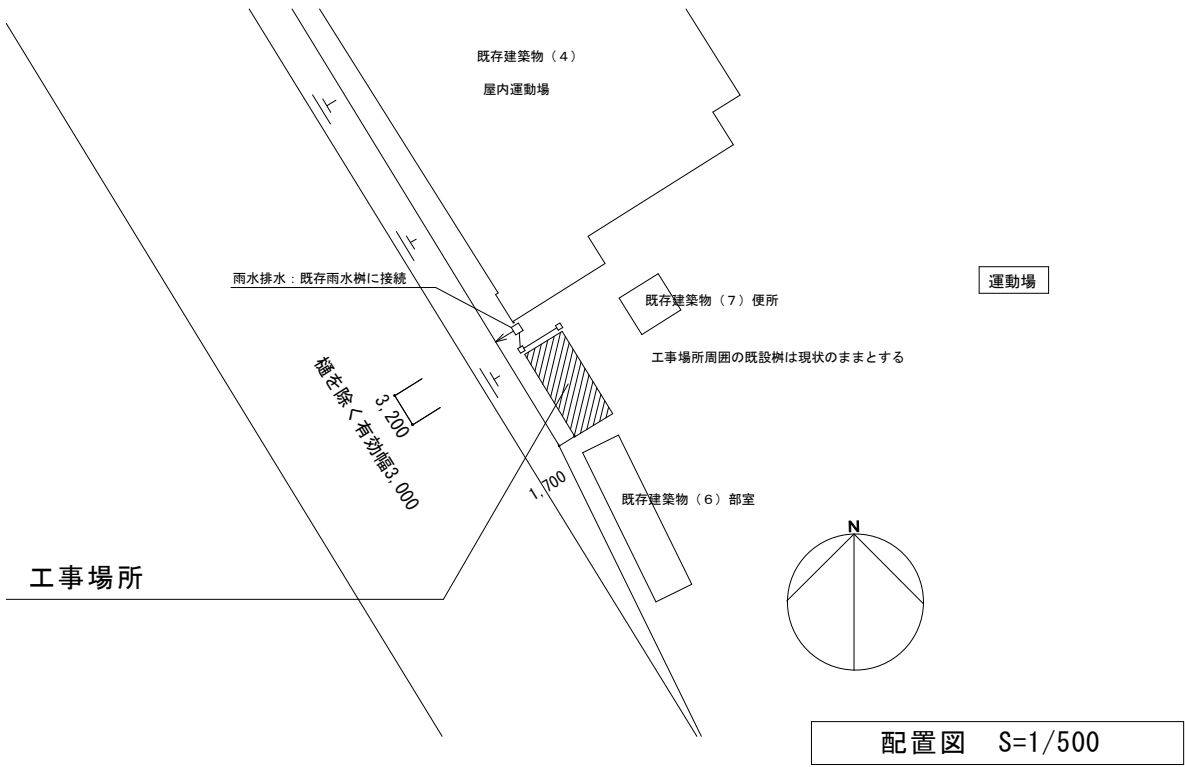
屋 根	モルタル金コテ押え、改質アスファルトシート防水
	軒樋：エスロン雨樋（高耐候性雨とい） カラーV P前高120
軒 裏	コンクリート打放し下地処理の上 外装用薄塗材 E
	軒樋：エスロン雨樋 カラーV P前高120
外 壁	コンクリート打放し下地処理の上 複層塗材 E
	目地棒目地切（巾＝20・深さ＝10）縦縫 カラーV P 75 ^Φ 摺り金物＠900以内
巾 木	コンクリート打放し下地処理の上 H=200
開口部	窓：アルミサッシ アルミ面格子
	入口：両引分銅製吊戸
土 間	モルタル金鍍押え 四半こて目地切
室名札	平付型 室名札：90×300 樹脂製 H・W・D＝90×300×87
	（体育倉庫）表示板：ステンレス（SUS-304）ヘアライン 文字：UV印刷

内部仕上表

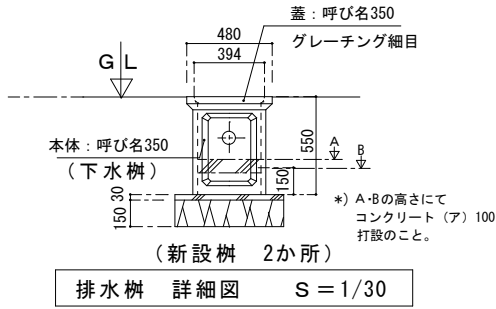
床	モルタル金鍍押え 四半こて目地切
巾 木	コンクリート打放し H=200
壁	コンクリート打放し
天 井	コンクリート打放し
備 考	タナ板：ラワン合板 t=12 (1 類) O.S 塗り

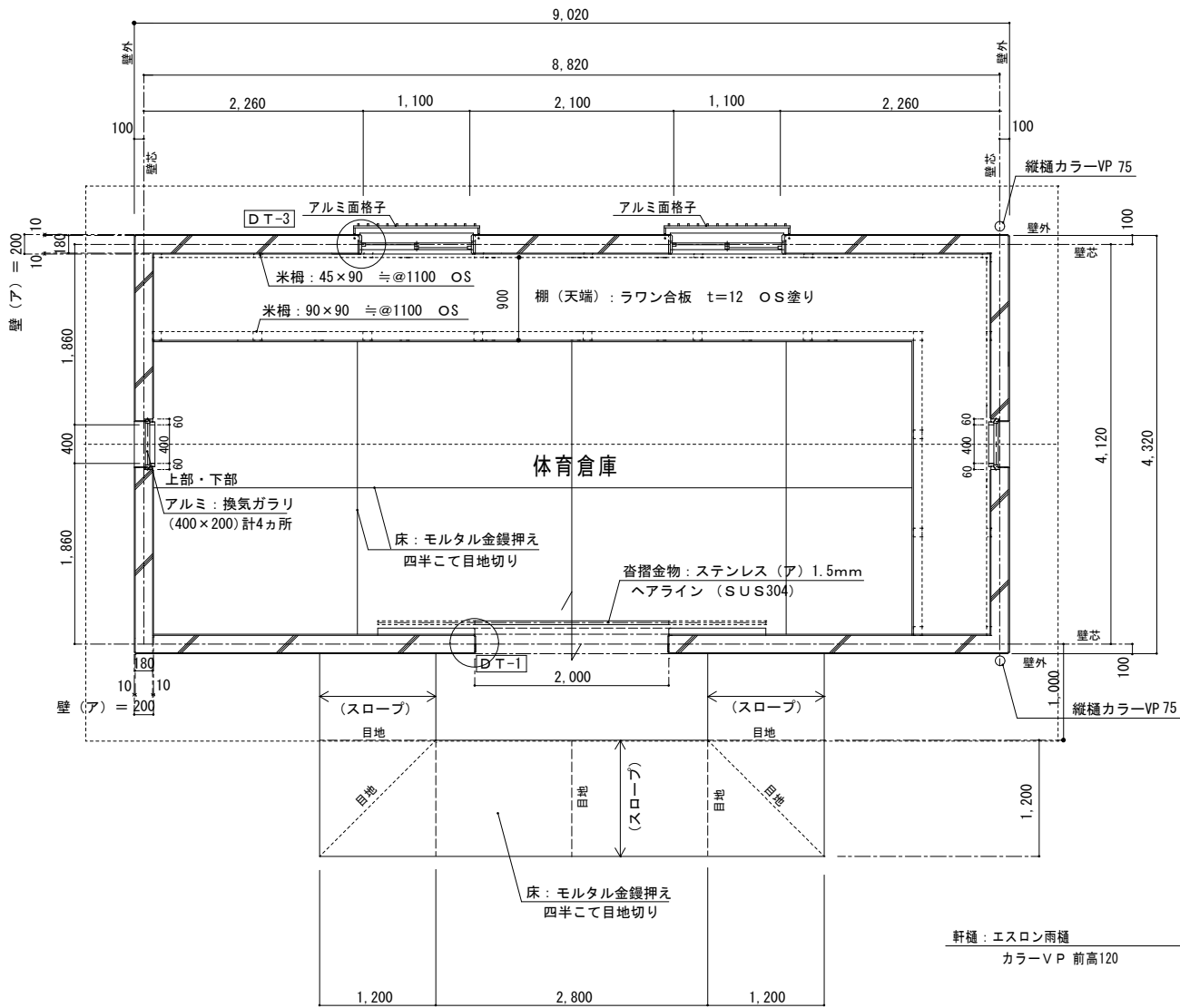
打放し仕上の種別

公共工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版	
B 種	せき板の程度：「コンクリート型枠用合板の規格」による
	ほとんど損傷のないもの
	セパレータ：「丸セパB型」
	端部が円錐状のプラスチック



第一種住居地域
容積率 200%
建ぺい率 60%

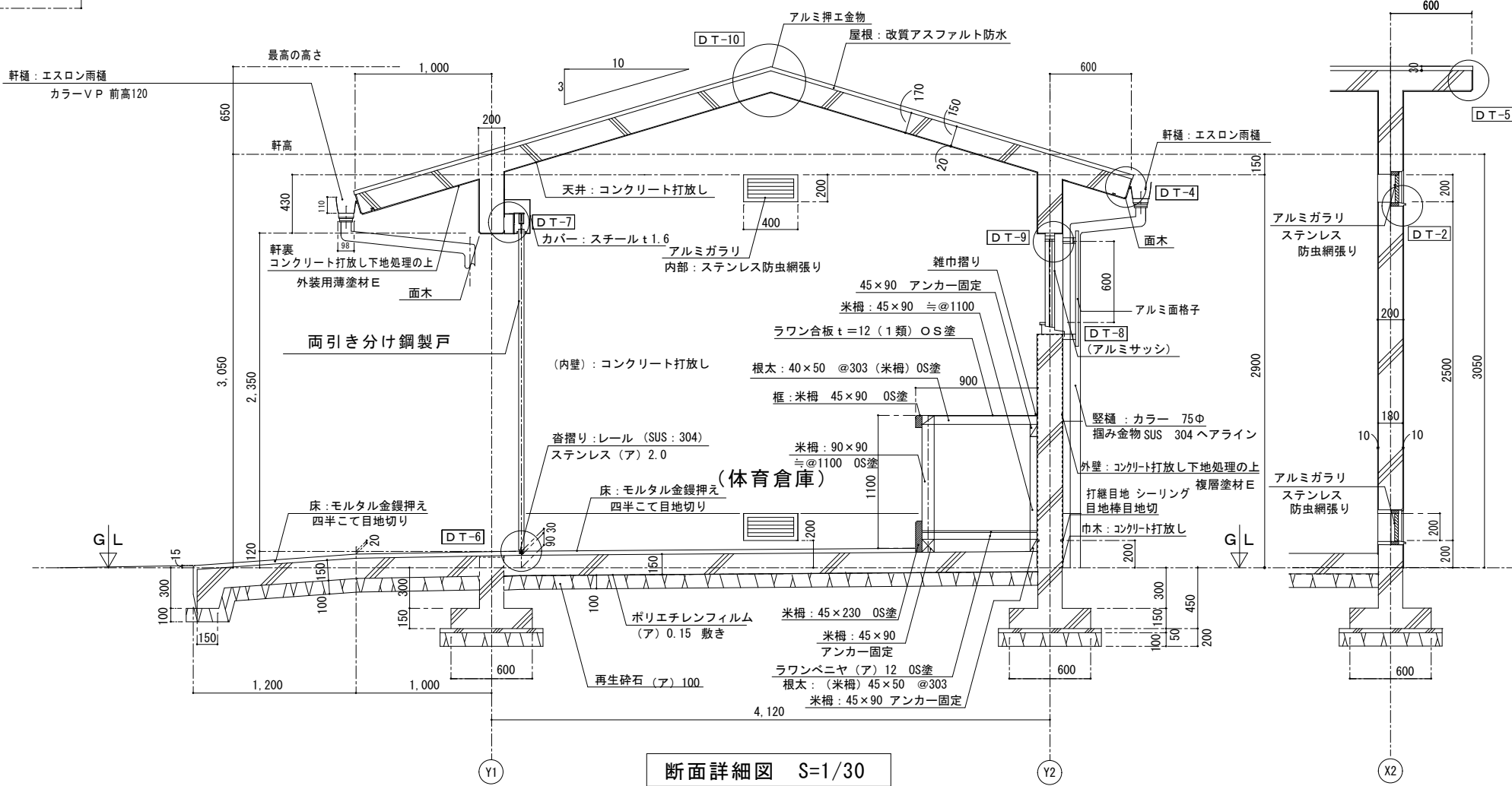




平面詳細図 S=1/50

内部仕上表	
床	モルタル金鍍押え 四半こて目地切
巾 木	コンクリート打放し H=200
壁	コンクリート打放し
天 井	コンクリート打放し
備 考	タナ : OS塗装

外部仕上表	
屋 根	モルタル金コテ押え 改質アスファルトシート防水 軒樋 : エスロン雨樋 カラーVP 前高120 縦樋カラーVP 75
軒 裏	コンクリート打放し下地処理の上 外装用薄塗材E
外 壁	コンクリート打放し下地処理の上 複層塗材E
巾 木	コンクリート打放し H=200
開口部	窓 : アルミサッシ アルミ面格子 入口 : 両引分銅製戸
土 間	モルタル金鍍押え 四半こて目地切
室名札	平付型 本体 : アルミ型材 (シルバー) H・W・D=90×300×87 表示板 : ステンレス (SUS304) ヘアライン 文字 : UV印刷

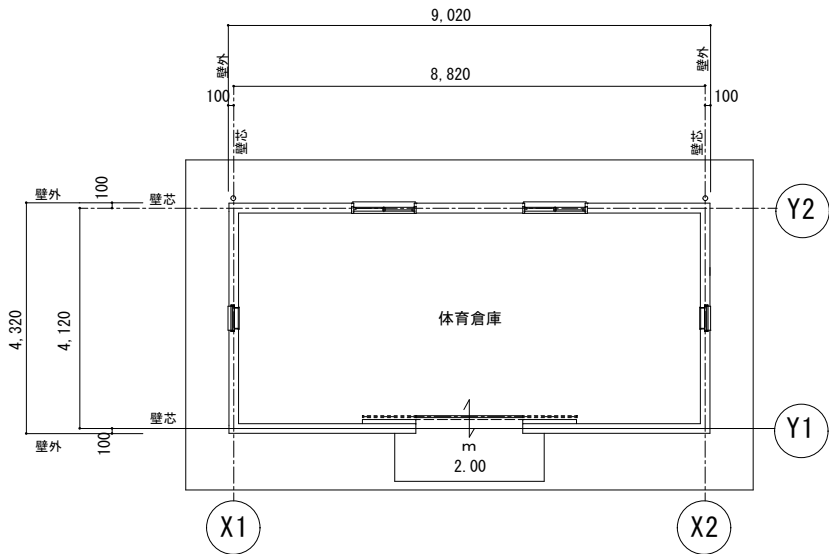


断面詳細図 S=1/30

ポリエチレンフィルム敷きは、基礎際の折り下がりの長さ250mm程度とする

A2 : 100%
A3 : 71%

福山市教育委員会事務局管理部施設課	主務	課員	次長	課長補佐	施設課長	部長	〒721-0973 神竜建築設計事務所 福山市南蔵王町一丁目5番27号 一級建築士事務所広島県知事登録 22 (1) 第0764号 TEL (084) 924-2073 一級建築士 登録 第67516号 山本 泰治 FAX (084) 924-2215	工 事 名 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事	図面名称	平面詳細図	断面詳細図	日 付	図面番号 08
									縮 尺	S=1/50	S=1/30	2025年	
												5月	



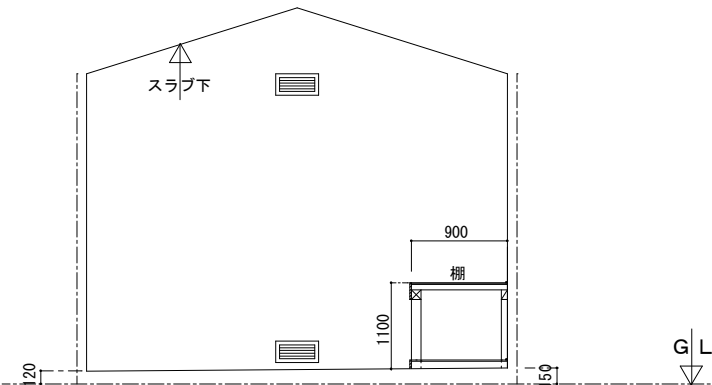
天井伏図 S=1/100

内部仕上表

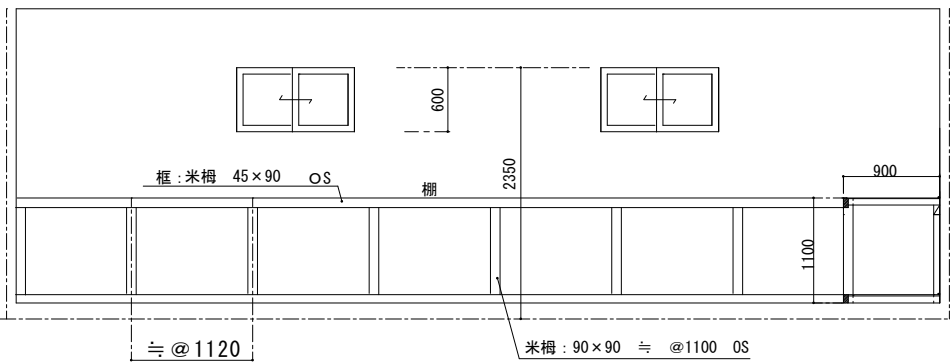
床	モルタル金鍍押え 四半こて目地切
巾 木	コンクリート打放し H=200
壁	コンクリート打放し
天 井	コンクリート打放し
備 考	タナ OS塗り

外部仕上表

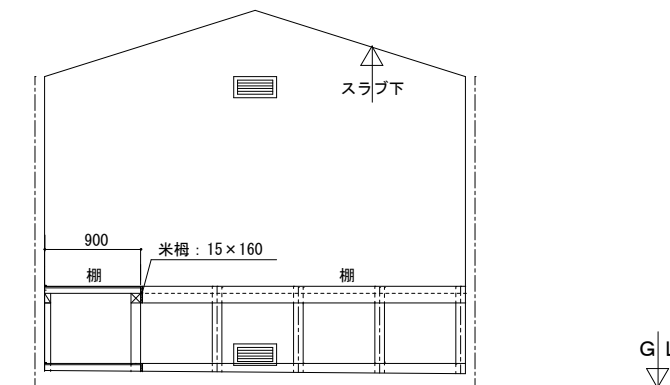
屋 根	モルタル金コテ押え 改質アスファルト防水
	縦縫カラーVP75
軒 裏	コンクリート打放し下地処理の上 外装用薄塗材E
外 壁	コンクリート打放し下地処理の上 複層塗材E
巾 木	コンクリート打放し H=200
開口部	窓：アルミサッシュ アルミ面格子
	入口：両引分銅製戸
土 間	モルタル金鍍押え 四半こて目地切
室名札	平付型 本体：アルミ型材（シルバー） H・W・D=90×300×87 表示板：ステンレス（SU S304）ヘアライン 文字：UV印刷



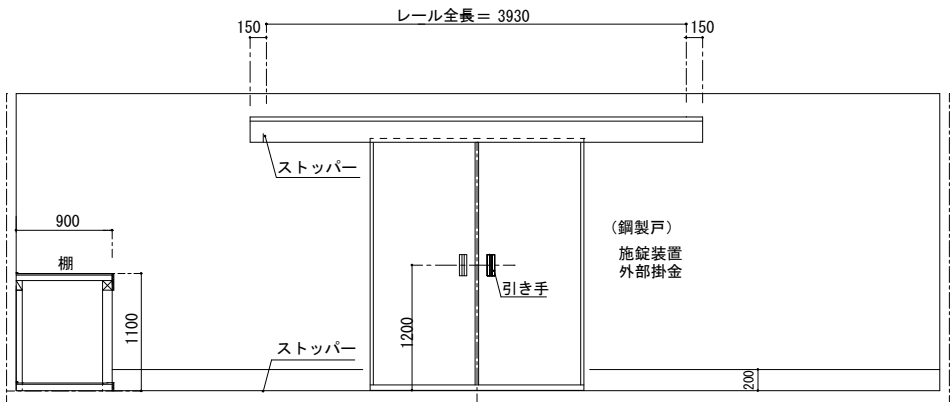
A 面



B 面

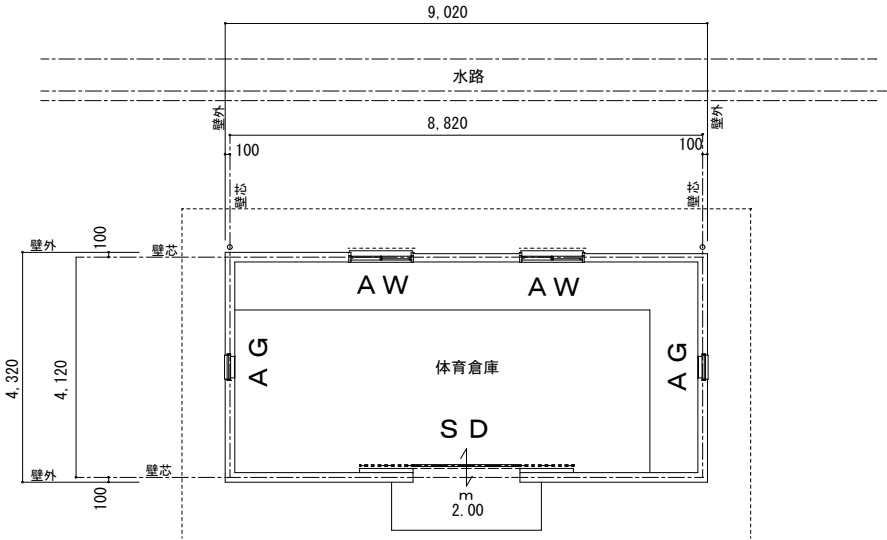


C 面



D 面

展開図 S=1/50

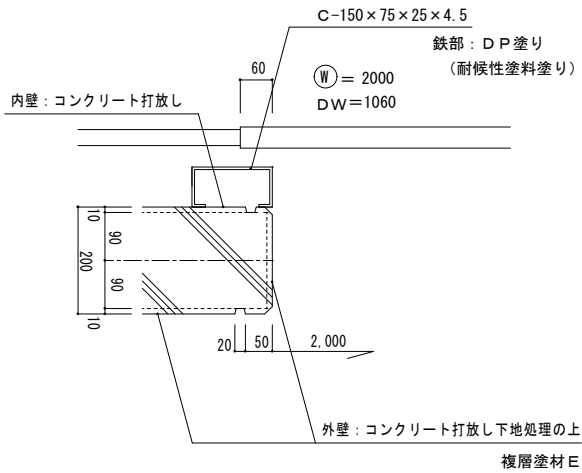


建具案内図 S=1/100

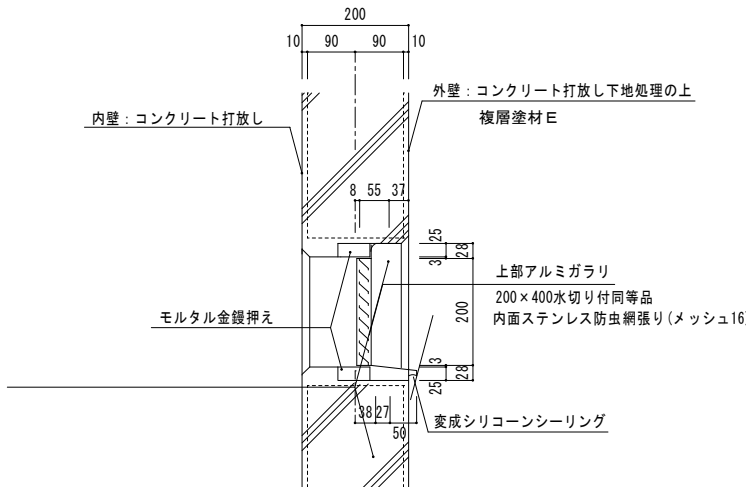
建具表 S = 1/50

符 号	S D （体育倉庫：1ヶ所）	A W （2カ所）	A G （2カ所）
姿 図			
形 式	S D （2枚引き分け）吊戸	引違い窓	固定ガラリ
仕上・見込み	板厚1.6	アルミシルバー70	アルミシルバー70
ガラス		型板ガラス t=4.0	
金 物	トラックレール ・ ドアハンガー ブラケット ・ ガイドレール 中央戸当り ・ ストッパー ・ 引き手	クレセント アングルピース アルミ水切り アルミ額縁 付属金物一式 アルミ面格子 (外部取付)	ステンレス防虫網（メッシュ16） アルミ水切り 付属金物一式
塗 装	掛け金物 ・ 南京錠 ・ ステンレス外部掛金 ・ 防塵ゴム ・ 塗装DP（耐候性塗料塗り）		

A2 : 100%
A3 : 71%

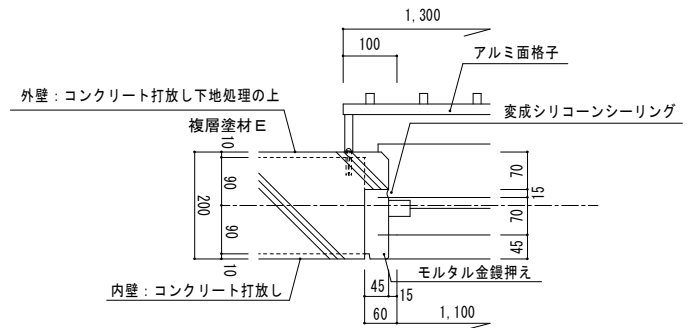


DT-1 S=1/10



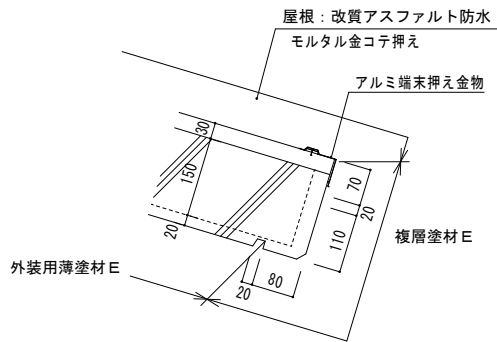
DT-2 S=1/10

(下部換気ガラリ)は、これに準ずる

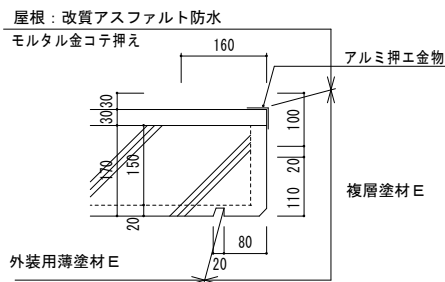


DT-3 S=1/10

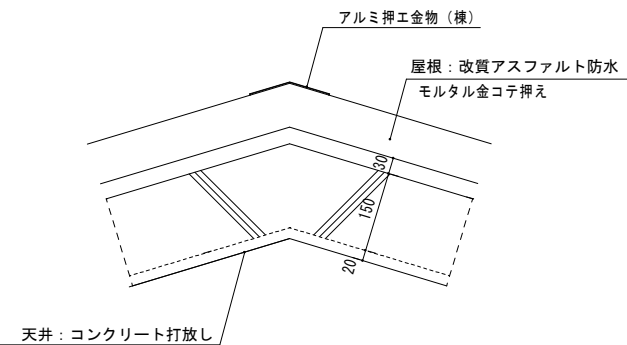
(換気ガラリ)は、これに準ずる



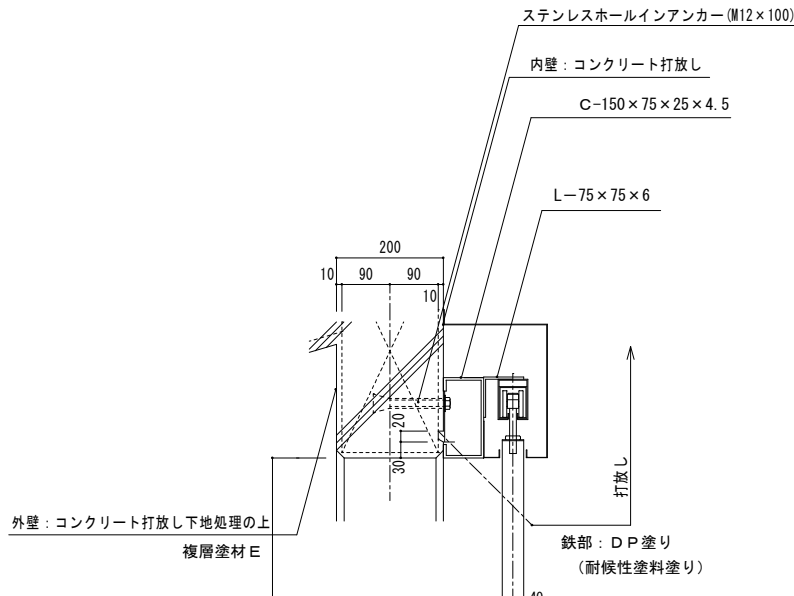
DT-4 S=1/10



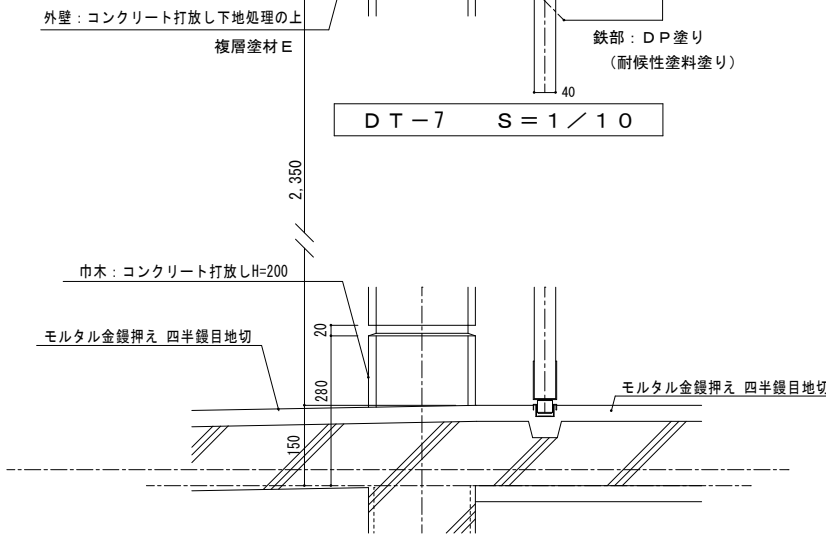
DT-5 S=1/10



DT-10 S=1/10

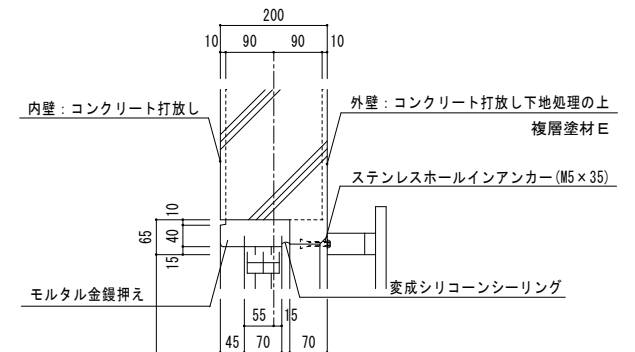


DT-7 S=1/10

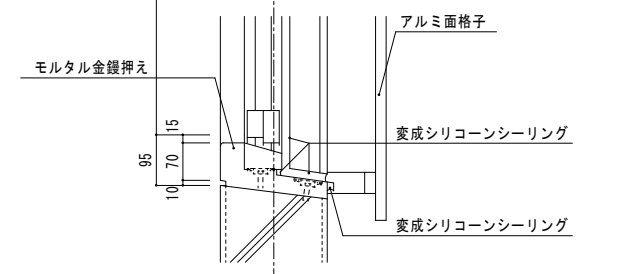


DT-6 S=1/10

※ドアハンガー金物はキョーワナスタ #50シリーズ(ステンレス製)同等品

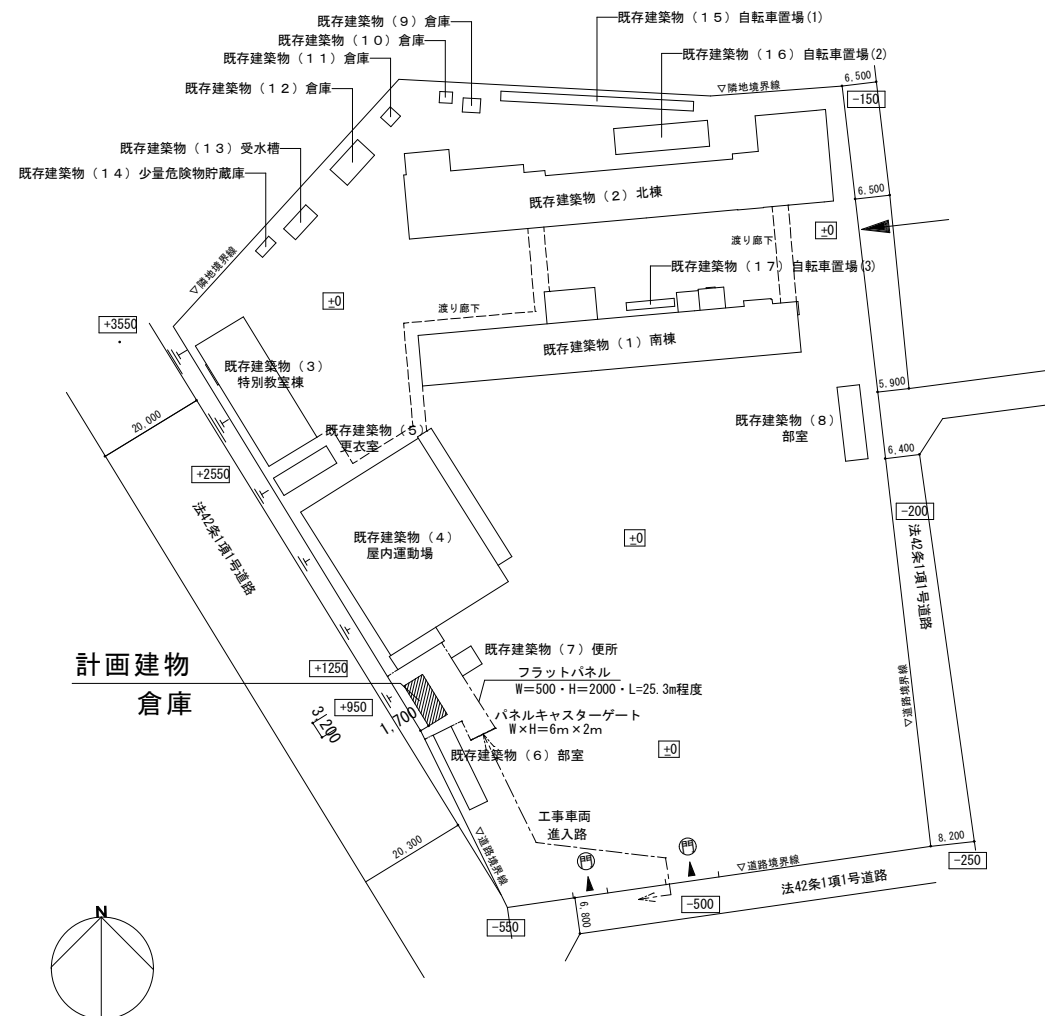
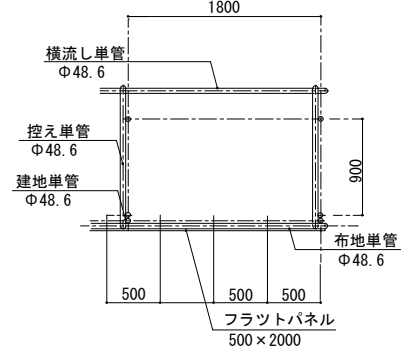
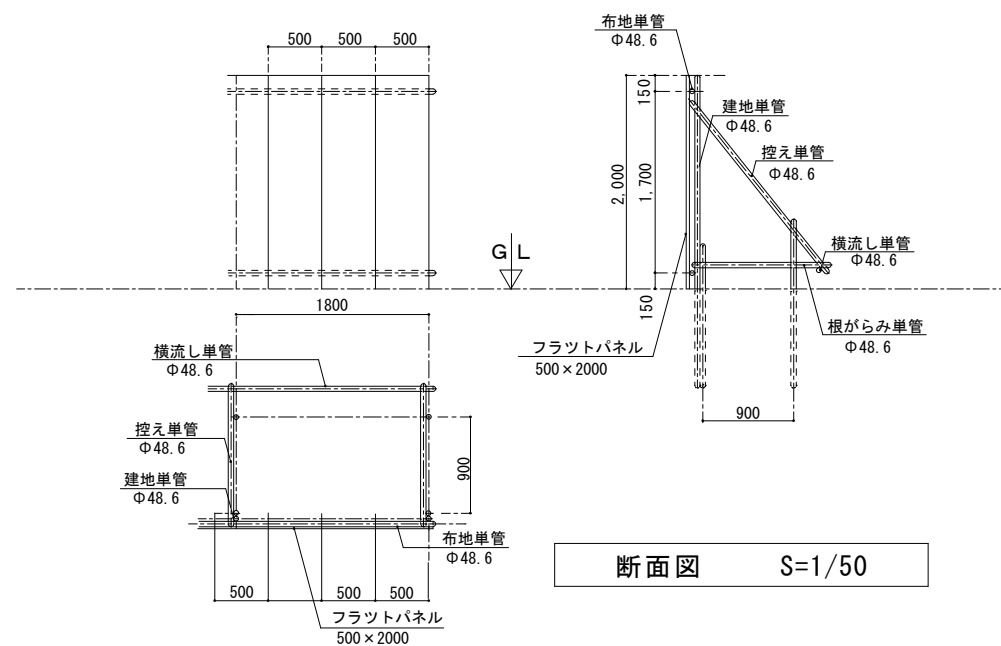


DT-9 S=1/10



DT-8 S=1/10

特記事項	
コンクリート面三角面取り	
コンクリート面打継ぎ目地	
コンクリート面化粧目地	
コンクリート面水切り目地	
壁モルタル目地	



記 号	内 容
	仮囲い フラットパネル 500×2000
	キャストゲート W・H=6.0×1.80
	工事車両進入路
	生徒・保護者 動線

章	項	特 記 事 項	章	項	特 記 事 項	章	項	特 記 事 項	章	項	特 記 事 項
4	① 基礎	※ 直接基礎（ ・ 地盤改良（ ・ 表層改良 ・ 柱状改良 ） ） 設計地耐力 KN/㎡ ・ 杭基礎	5	場所打ちコンクリート杭地業	施工管理技術者 ※適用する 寸法等	⑦	コンクリートの材料	セメント	6	ターンバックル	鋼の種類 ※ 割断式 ボルトの種類 ※ 羽子板ボルト
	2 試験及び報告書	試験杭 位置、本数及び寸法 ・ 最初の1本 ・ 図示による (4.2.2) 杭の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.3) 地盤の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.4)		鉄筋の種類 ・ A種 ※B種 ・ 評定等の内容による コンクリートの設計基準強度 () N/mm ² 以上 構造体強度補正值 ・ 3N/㎡ ・ 構造図による ・ 評定等の内容による セメントの種類 ※高炉セメントB種 スランプ値 ※18cm ・ 鉄筋の種類 ※5章鉄筋工事の鉄筋の種類による 鋼管巻きの材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ 鋼管径・板厚・長さ ※構造図による 掘削工法 ・ アースドリル工法（安定液 ※使用する ・ 使用しない） ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法（孔内の水強 ・ 行う ・ 行わない） 併用する工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 ・ SKK00 ・ SKK490 ・ () ・ 底底杭工法（安定液 ※使用する ・ 使用しない） 孔壁測定 ※行う 測定方法 ※超音波測定器 測定場所 ※試験杭 () 箇所及び本杭 () 箇所 ・ 行わない 鉄筋かごの補強 ・ 標準仕様書4.5.4(1)(4)(a)による ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・ 鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※構造図による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・	⑧		コンクリート製造工場の選定	※ レディミクストコンクリート工場の選定は、監督員の承諾を受ける。 (6.4.1)		7 デッキプレート	・ 材質・形状・寸法
	3 既製コンクリート杭地業	施工管理技術者 ※適用する (4.3.2) 種類 (4.3.1~8) ・ 通心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭） ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭） SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ 寸法、継手、性能等		⑨	強度		構造体強度補正值 S (N/mm ²) 適用箇所 ※建物本体 ・ (6.3.2)(表6.3.2)	8 柱底均しモルタル		材 料 ・ モルタル ・ 無収縮モルタル（表7.2.5） 工 法 ※A種 ・ B種 (表7.10.2)	
	4 鋼杭地業	先端部材形状 ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉さく形 なお、特定埋込杭工法における杭材料はJIS又は認定条件に適合するものとする ネガティブフリクション対策 ※不要 ・ 要（構造図による） ・ アーク溶接継手 ・ 標準仕様書4.3.6による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手 （※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ・ 切断しない ・ 切断する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・ () 施工方法 ・ セメントミルク工法 アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ・ 1.0m程度 杭の支持地盤への掘入れ深さ ・ 1.0m以上 ・ 特定埋込杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 工 法 ・ プレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 杭周囲固定液の使用 ・ する ・ しない 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・		⑩	適中コンクリート		※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1~6.12.4) 構造体強度補正值 S (N/mm ²) 6.0 N/mm ²	9 溶接部の試験		完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.12)(表7.6.2~7.6.3) ※行う ・ 行わない 工場溶接の場合 A O Q L ※4.0% ・ 2.5% 箇 所 ※全て 検査基準 ※第6水準	
				⑥ 砂利及び砂地業	厚さ (mm) ※ 60 ①100 (4.6.3) 材料 ① 直接基礎 ※ 切込砂利又は切込砕石 (4.6.2) ・ その他 ※ 再生クラッシュラン		⑪	適中コンクリート	※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1~6.12.4) 構造体強度補正值 S (N/mm ²) 6.0 N/mm ²	10 錆止め塗装	鉄面 ・ JIS K5674 工場 回塗り 現場 回塗り (7.8.1~7.8.4) ・ JIS K5551、5552 工場 回塗り 現場 回塗り (18.7.2) 亜鉛めっき面 ※18章 塗装工事による 耐火被覆材の接着面 ・ 行う ・ 行わない (7.8.2)
				⑦ 捨コンクリート地業	厚さ (mm) ※ 50 (4.6.4)		⑫	適中コンクリート	※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1~6.12.4) 構造体強度補正值 S (N/mm ²) 6.0 N/mm ²	11 耐火被覆	種別及び性能 (7.9.1~7.9.9)
				⑧ 床下防湿層	・ ポリエチレンフィルム 厚 ※ 0.15mm以上 (4.6.5)		⑬	適中コンクリート	※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1~6.12.4) 構造体強度補正值 S (N/mm ²) 6.0 N/mm ²	12 溶融亜鉛めっき工法	種 別 ※ A種（軽量形鋼は板厚によりB種・C種とする。） (7.12.4) 表14.2.2
				9 断熱材	※ 19章「内装工事」9項「断熱材」による		⑭	適中コンクリート	※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1~6.12.4) 構造体強度補正值 S (N/mm ²) 6.0 N/mm ²	13 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	摩擦面の処理 詳細は鉄骨工事仕様書による (7.12.5) ・ リン酸塩処理 ※ プラスト処理
				⑤ 鉄筋の種類	鉄筋 (表5.2.1)		15	マスコンクリート	セメントの種類 () 混和材料 () 適用箇所 ()		
				⑥ 鉄筋工事	鉄筋 (表5.2.1)		16	水密コンクリート	水セメント比 (/wt) スランプ (cm) 適用箇所 ※50 ・ ※15 ・		
				2 溶接金網	網目の形状、寸法及び径 (mm) ・ 施工場所 () (5.2.2)		⑰	打継部	止水板 止水ゴムの製造所 () 適用箇所 () 打継ぎ目地 ※ 図示による ・ 幅20mm以上 深さ10mm以上 打継ぎ位置 ※ 標仕による ・		
				③ 柱・梁の鉄筋の継手	・ ガス圧接（SD295は不可） ・ 重ね継手 () (5.3.4) ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 (5.4.2) 継手位置 ※ 鉄筋工事仕様書による ・ 図示による ※ 鉄筋工事仕様書による ・ 各部配筋参考図7.1 ・ 図示による		18	無筋コンクリート	適用箇所 ※ 6.14.1による ・ (6.14.1) 粗骨材の最大寸法（捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合） (6.14.2) ※ 25mm以下 コンクリートの品質 (6.14.1)		
				4 梁貫通孔補強	検査方法 ※ 超音波深傷試験 (5.4.10) ・ 引張試験 ・ 組み立ての形はS Pとする。 (鉄筋工事仕様書)		19	流動化コンクリート	・ 適用 () (6.15.1)		
				5 圧接完了後の検査	検査方法 ※ 超音波深傷試験 (5.4.10) ・ 引張試験 ・ 組み立ての形はS Pとする。 (鉄筋工事仕様書)		7				
				6 柱の帯筋	・ 組み立ての形はS Pとする。 (鉄筋工事仕様書)						
				⑥ ① コンクリートの強度	※ 普通コンクリート (6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2)		1	鉄骨製作工場及び施工管理技術者	鉄骨製作工場 ・ 次表による加工能力のある工場 ・ 監督員の承諾する工場 (7.1.3~4)		
				② コンクリートの種類	※ I 類 ・ II 類 (6.2.1)(表6.2.1)		2	鋼材	製作工場の加工能力		
				③ 水セメント比	・ 最大値は 65% とする ・ % (6.3.2) （低熱ボルトランドセメント及び混合セメントB種の場合は 60%） (6.3.2)		3	高力ボルト	・ トルシア形高力ボルト（セットの種類 ※ 2種（S10T） ・ ） (7.2.2) ・ JIS形高力ボルト（セットの種類 ※ 2種（F10T） ・ ） ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（セットの種類 ※ 1種（F8T相当） ・ ） ボルト径 ※ 図示による ・		
				④ コンクリート中の塩化物質	※ 0.30kg/㎡以下		4	普通ボルト	ボルト及びナットの材料等 ※ 表7.2.3による (7.2.3) ボルト径 ※ 図示による ・		
				⑤ コンクリートのアルカリ総量	① アルカリ量が表示されたボルトランドセメント等を使用し、コンクリート中の総アルカリ量を3.0kg/㎡以下とする。 (6.5.4)		5	アンカーボルトの材質及び設置	材質 構造用アンカーボルト ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ABR520 SUS (7.2.4)(7.10.3) 建方用アンカーボルト ・ S S 400 ・ 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 (表7.10.1) ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A種 ※ B種 ・ その他 ・		
				⑥ コンクリートの仕上り	打放し仕上げの種類 (6.2.5)(表6.2.3) ※ 合板せき板を使用する場合 種 別 せき板の種類 表面・せき板の程度 適用箇所 ・ A種 JAS（表面加工品） 表6.2.4 ※ 図示 ・ ※ B種 JAS B-C 表6.2.4 ・ ・ C種 JAS B-C 表6.2.4 ・						

〒721-0973
福山市南蔵王町一丁目5番27号
T E L (084) 924-2073
F A X (084) 924-2115

神竜建築設計事務所
一級建築士事務所 登録 22 (1) 第0764号
一級建築士 登録 22 (1) 第67516号 山本 泰治

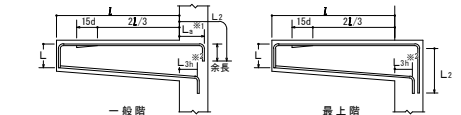


福山市教育委員会事務局管理部施設課
設計
2025年 5月

工事名称
福山市立松永中学校体育倉庫改築工事
図面名称
構造特記仕様書

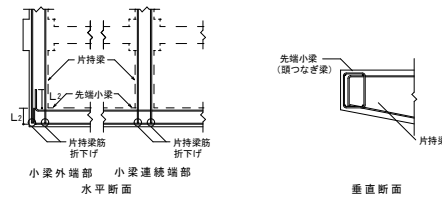
図面No
S 01

鉄筋工事仕様書 No. 2

2. 片持梁主筋の定着及び余長
1) 先端に小梁のない場合

- (注)
1. 印は、余長位置を示す。
 2. 先端の折曲げ長さ L_1 は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
 3. 図示のない事項は、大梁の項による。
- ※1. L_1 の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- ※2. L_2 を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

2) 先端に小梁がある場合



- (注)
1. 図示のない場合は、先端に小梁のない場合の項による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

壁及びその他の配筋

1. 壁の基準配筋

1) 壁の基準配筋は下図による。

種 別	縦筋及び横筋	断 面 図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

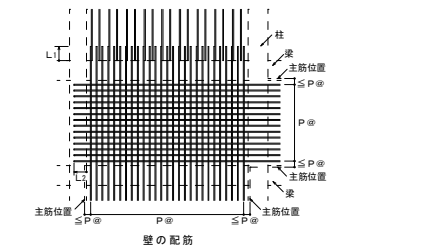
(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

2) 片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋は下図による。

種 別	縦筋及び横筋	断 面 図 (mm)	階段の配筋種別
KW1	縦筋 D13-200@ダブル 横筋 D10-200@ダブル	180	KA1 KA3
KW2	縦筋 D13-150@ダブル 横筋 D10-200@ダブル	200	KA2 KA4

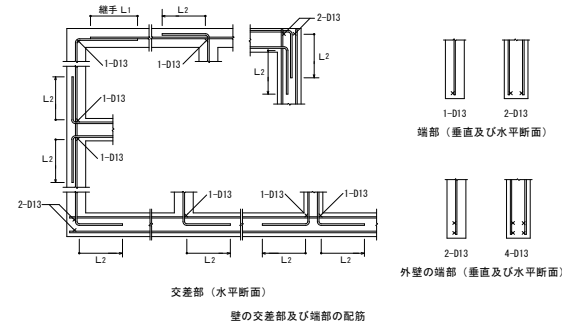
(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

2. 壁の継手及び定着



- (注)
1. 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
 2. 壁配筋の重ね継手は L_1 、定着長さは L_2 とする。
 3. 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
 4. 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。

3. 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

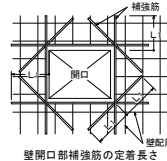


4. 壁開口部の補強

1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形又はB形とする。

壁開口部補強筋 (A形)			壁開口部補強筋 (B形)		
壁の種別	補 強 筋		壁の種別	補 強 筋	
W12, W15	縦 横	斜 め	W12, W15	縦 横	斜 め
W18, W20	1-D13	1-D13	W18, W20	2-D13	1-D13
	2-D13	2-D13		4-D13	2-D13

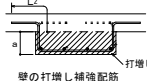
2) 壁開口部補強筋の定着長さは、下図による。



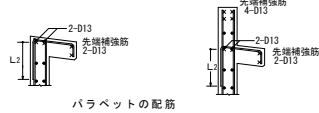
3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

5. 壁の打増し補強配筋

壁の打増し厚さ (a) が50mm以上の場合の補強を示す



6. バラベットの配筋



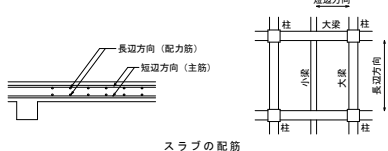
スラブの配筋

1. スラブの基準配筋

1) スラブの基準配筋

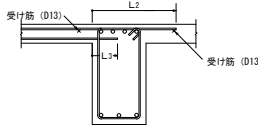
スラブの基準配筋					
配筋 種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	配筋 種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域
S 1	D13-100	D13-100	S 8	D10、D13-150	D10-150
S 2	同 上	D13-150	S 9	同 上	D10-200
S 3	同 上	D10、D13-150	S 10	D10、D13-200	D10、D13-200
S 4	D13-150	D13-150	S 11	同 上	D10-200
S 5	同 上	D10、D13-150	S 12	同 上	D10-250
S 6	同 上	D10-150	S 13	D10-200	D10-200
S 7	D10、D13-150	D10、D13-150	S 14	同 上	D10-250

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

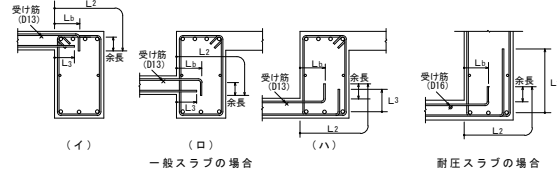


1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは、 L_1 とする。

2. スラブ筋の定着及び受け筋



スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

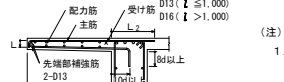


スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

3. 片持ちスラブの基準配筋

1) 片持ちスラブの基準配筋

片持ちスラブの基準配筋							
配筋種別		主 筋		配筋種別		主 筋	
CS 1	上	D13-100@		CS 5	上	D10-200@	
	下	D13-200@			下	D10-400@	
CS 2	上	D13-150@		CS 6	上	D10、D13-200@	
	下	D13-300@			下	—	
CS 3	上	D10、D13-150@		CS 7	上	D10-200@	
	下	D10、D13-300@			下	—	
CS 4	上	D10、D13-200@					
	下	D10-200@					



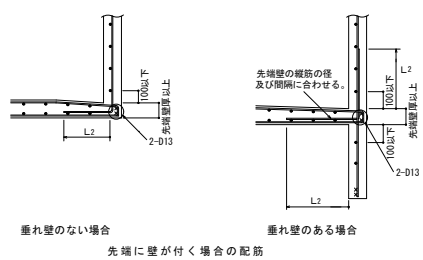
片持ちスラブの配筋 (CS1からCS5)



片持ちスラブの配筋 (CS6及びCS7)

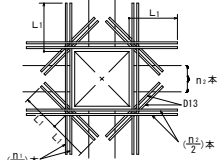
- (注)
1. 先端の折曲げ長さ L_1 は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
 2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

4. 先端に壁が付く場合の配筋は、下図による。



5. スラブ開口部の補強 (スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合に限る。)

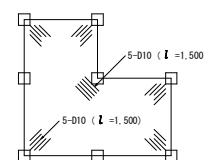
- 1) スラブ開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($L_1 \geq 2L_2$) シングルを上下筋の内側に配筋する。
- 2) スラブ開口部の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



スラブ開口部の補強配筋

6. 出隅部及び入隅部の補強

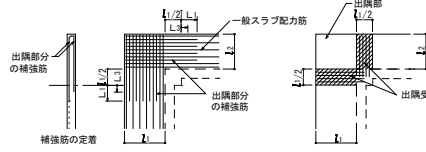
1) 屋根スラブの出隅部及び入隅部



補強筋を上端筋の下側に配置する。

出隅及び入隅部の補強配筋

2) 片持ちスラブの出隅部



- (注) 1. $L_1 \geq L_2$ とする。
- (注) 1. $L_1 \geq L_2$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に L_1 定着する。

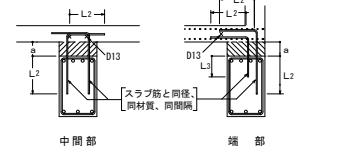
出隅部分の補強配筋

出隅受け部配筋

片持ちスラブ出隅部の補強配筋

7. スラブの打継ぎ補強等

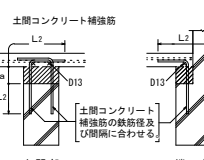
1) 土間スラブの打継ぎ補強



打継ぎ補強配筋

(注) 基礎梁と土間スラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

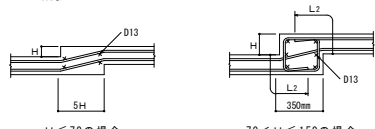
2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

- (注) 1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. a が300mm以下の場合に限る。

8. 段差のあるスラブの補強



段差のあるスラブの補強配筋

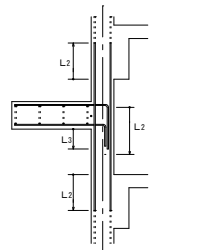
150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

階段の配筋

1. 片持ちスラブ形階段

片持ちスラブ形階段の基準配筋は、下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

配筋種別	KA 1	KA 2
配筋図		
配筋種別	KA 3	KA 4
配筋図		



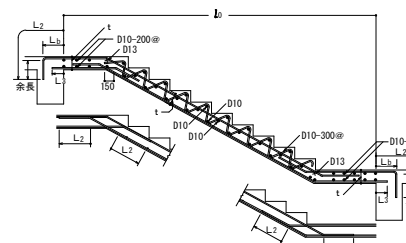
片持ちスラブ形階段配筋の定着

- (注)
1. 壁配筋は、片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋による。
 2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦におろす。
 3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、〔鉄筋の定着長さ〕の L_1 とする。

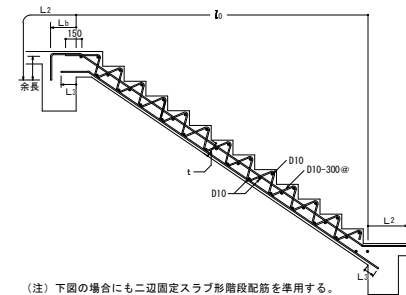
2. 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)	配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB 1	D13-200@	KB 5	D16-150@
KB 2	D13-150@	KB 6	D16-125@
KB 3	D13-100@	KB 7	D16-100@
KB 4	D13, D16-150@		



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

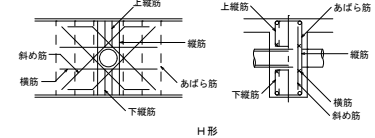


二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

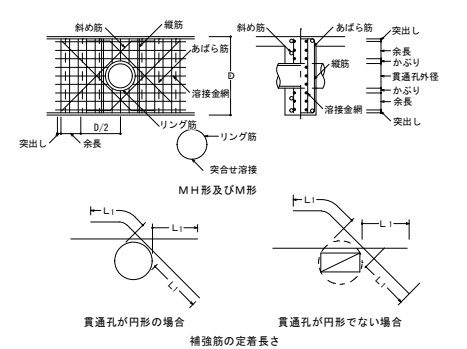
梁貫通孔及びその他の配筋

1. 梁貫通孔の配筋

- 1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。
- 2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- 3) 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。
- 8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋は貫通孔の中心とする。



H形



2. 梁貫通孔の補強形式

配筋種別	斜め筋	縦 筋	横 筋	上下筋	配 筋 図
H 1	なし	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	なし	なし	なし	
H 5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

配筋種別	縦 筋	溶接金網	配 筋 図
M 1	2-2-D13	なし	
M 2	4-2-D13	なし	
M 3	4-2-D13	なし	
M 4	6-2-D13	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

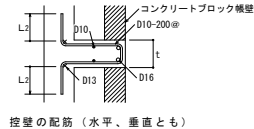
配筋種別	斜め筋	縦 筋	溶接金網	配 筋 図
MH 1	なし	なし	なし	
MH 2	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH 3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 5	4-2-D16	なし	なし	
MH 6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH 7	4-2-D19	なし	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

- (注)
1. 大匠認定による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。

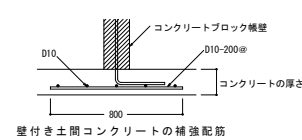
3. コンクリートブロック帳壁との取合い

1) 控壁の配筋



控壁の配筋 (水平、垂直とも)

2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強



壁付土間コンクリートの補強配筋

工事名称 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事

図面名称 鉄筋工事仕様書 No. 2

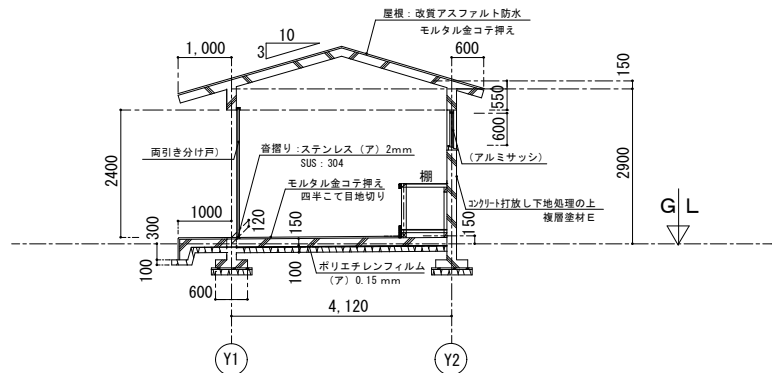
神竜建築設計事務所

福山市

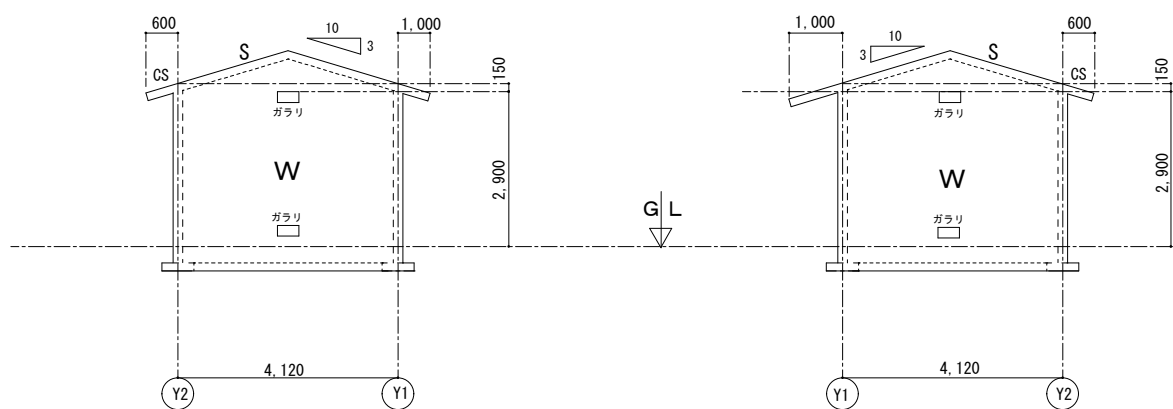
2025年5月

図面 No.

S 03

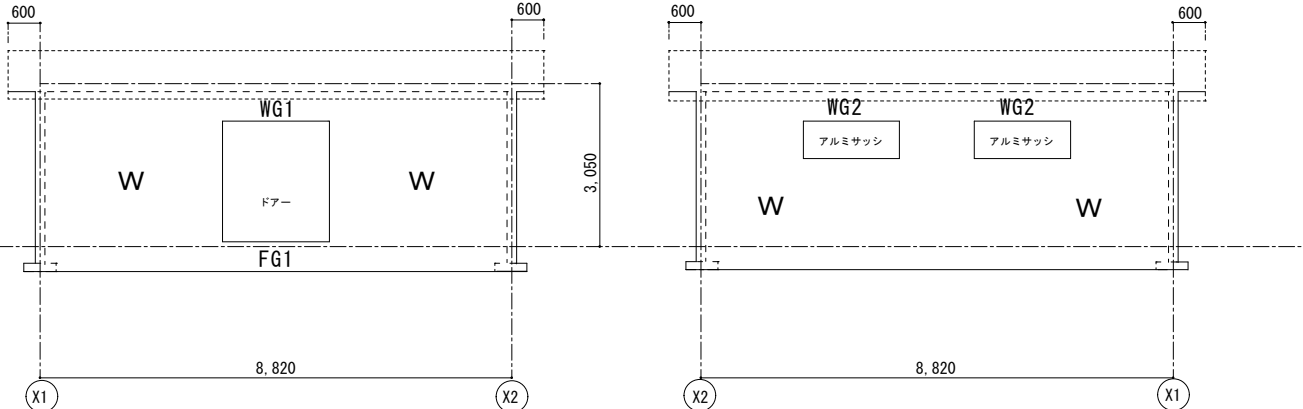


断面図 S=1/100



(X1) 通り 軸組図 S=1/100

(X2) 通り 軸組図 S=1/100

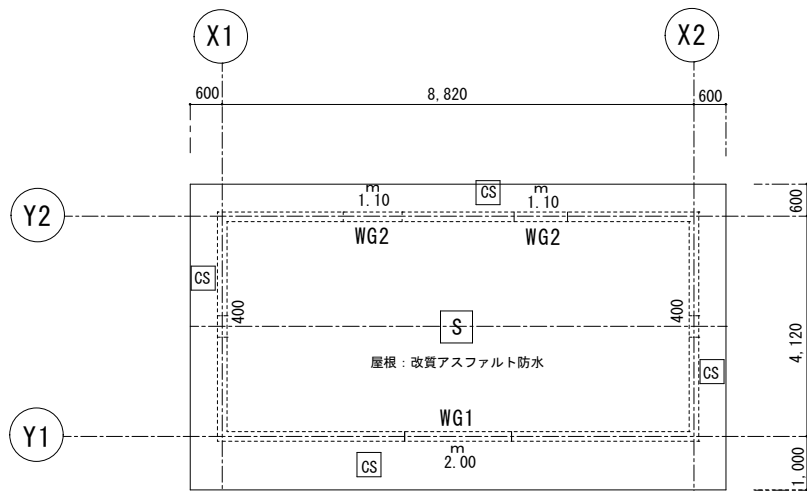


(Y1) 通り 軸組図 S=1/100

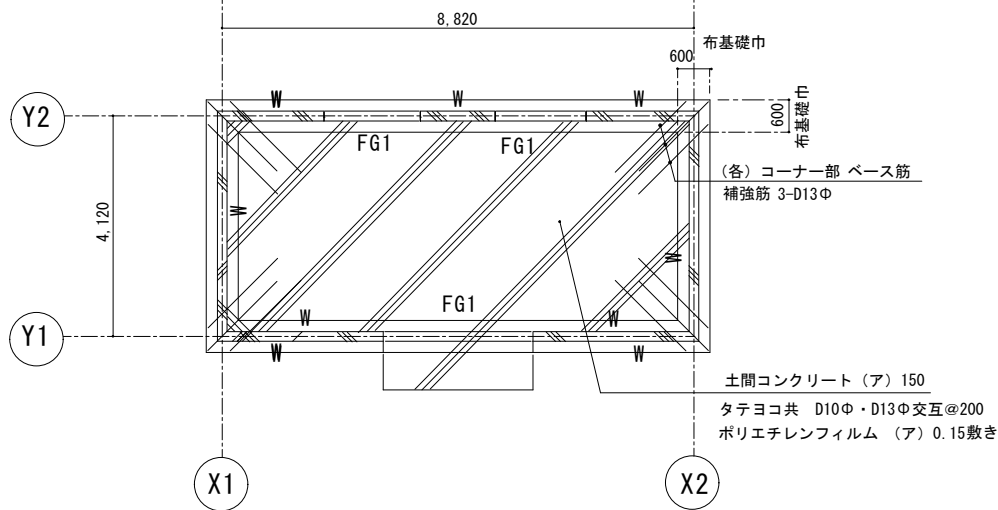
(Y2) 通り 軸組図 S=1/100

A2 : 100%
A3 : 71%

福山市教育委員会事務局管理部施設課	主務	課員	次長	課長補佐	施設課長	部長	〒721-0973 神竜建築設計事務所 福山市南蔵王町一丁目5番27号 一級建築士事務所所広島県知事登録 22 (1) 第0764号 TEL (084) 924-2073 FAX (084) 924-2215 一級建築士 登録 第67516号 山本 泰治	工 事 名 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事	図面名称 縮 尺	断面図 S=1/100	軸組図 S=1/100	日 付	図面番号 S 04
												2025年	
												5月	

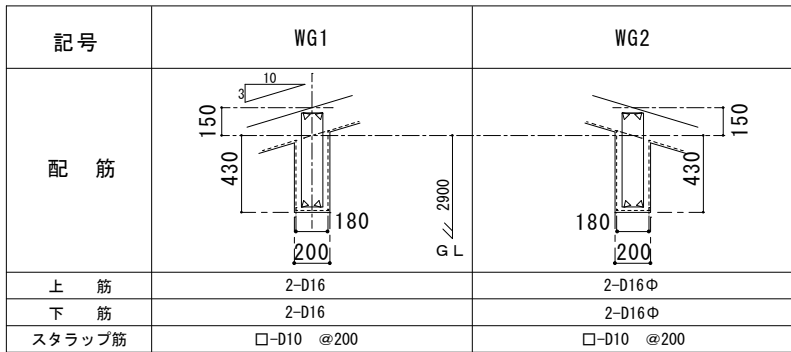


屋根スラブ・梁伏図 S=1/100



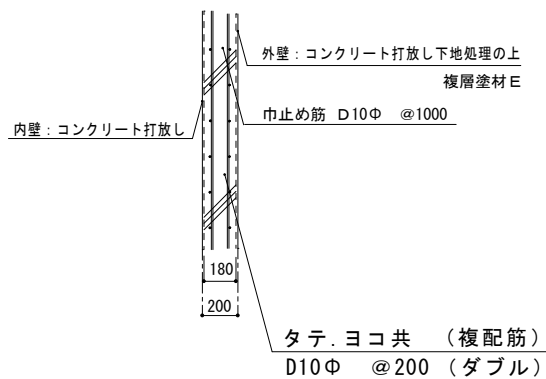
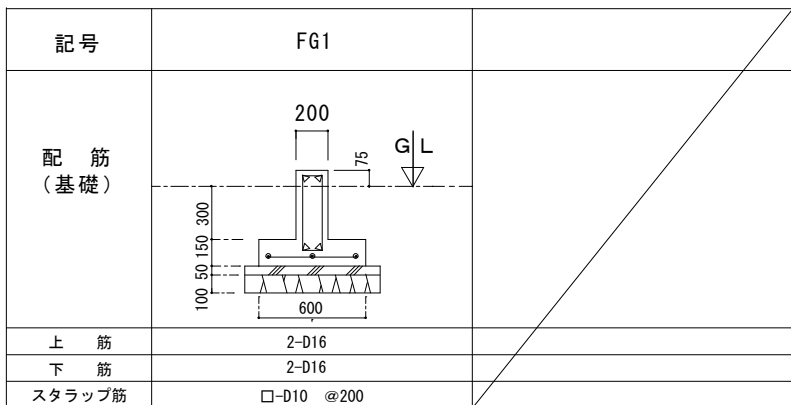
基礎伏図 S=1/100

壁梁 配筋図 S=1/30

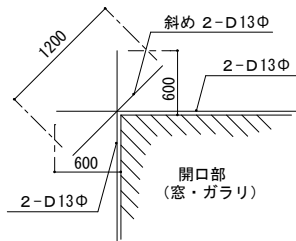


鉄筋 符号

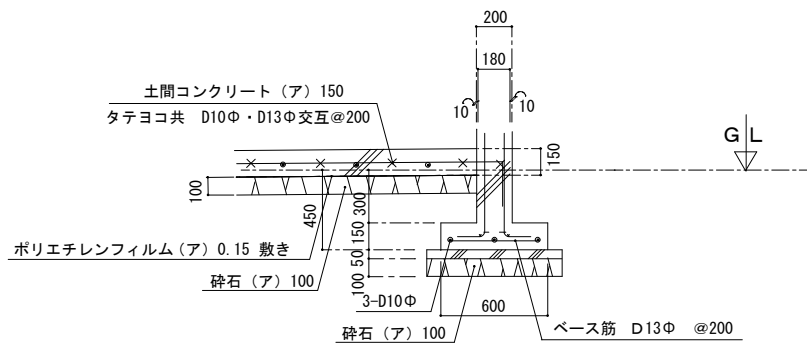
D 10 Φ	○
D 13 Φ	×
D 16 Φ	△
D 19 Φ	○



W 壁配筋図 S=1/30

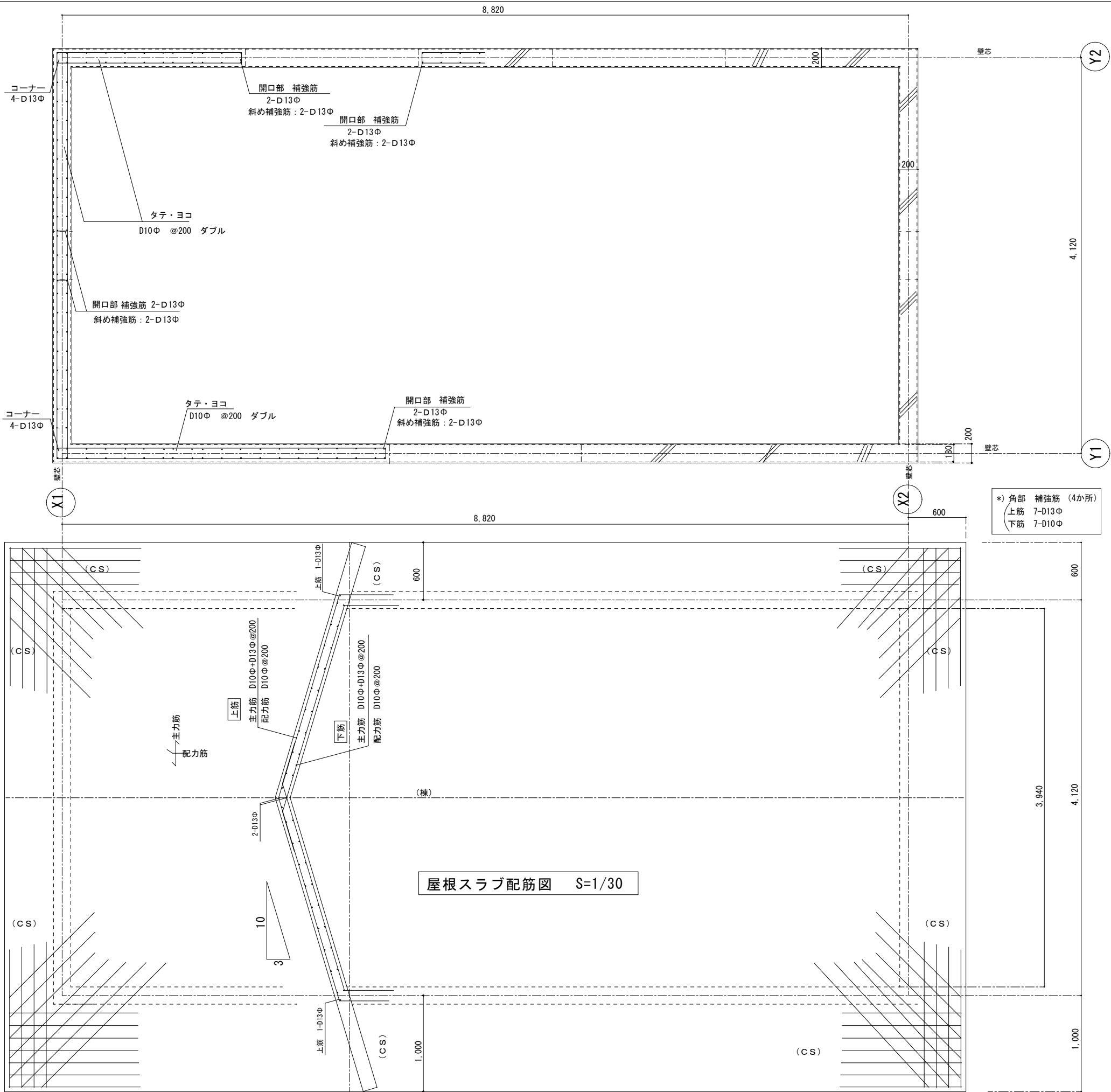


W 壁補強筋 配筋図 S=1/30

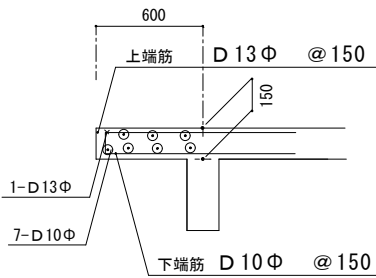
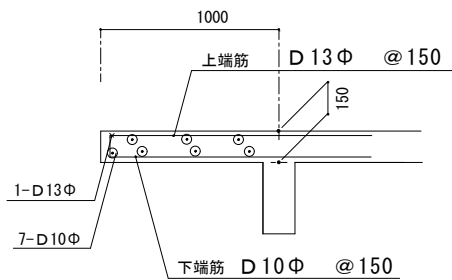


基礎配筋図 S=1/30

A2 : 100%
A3 : 71%



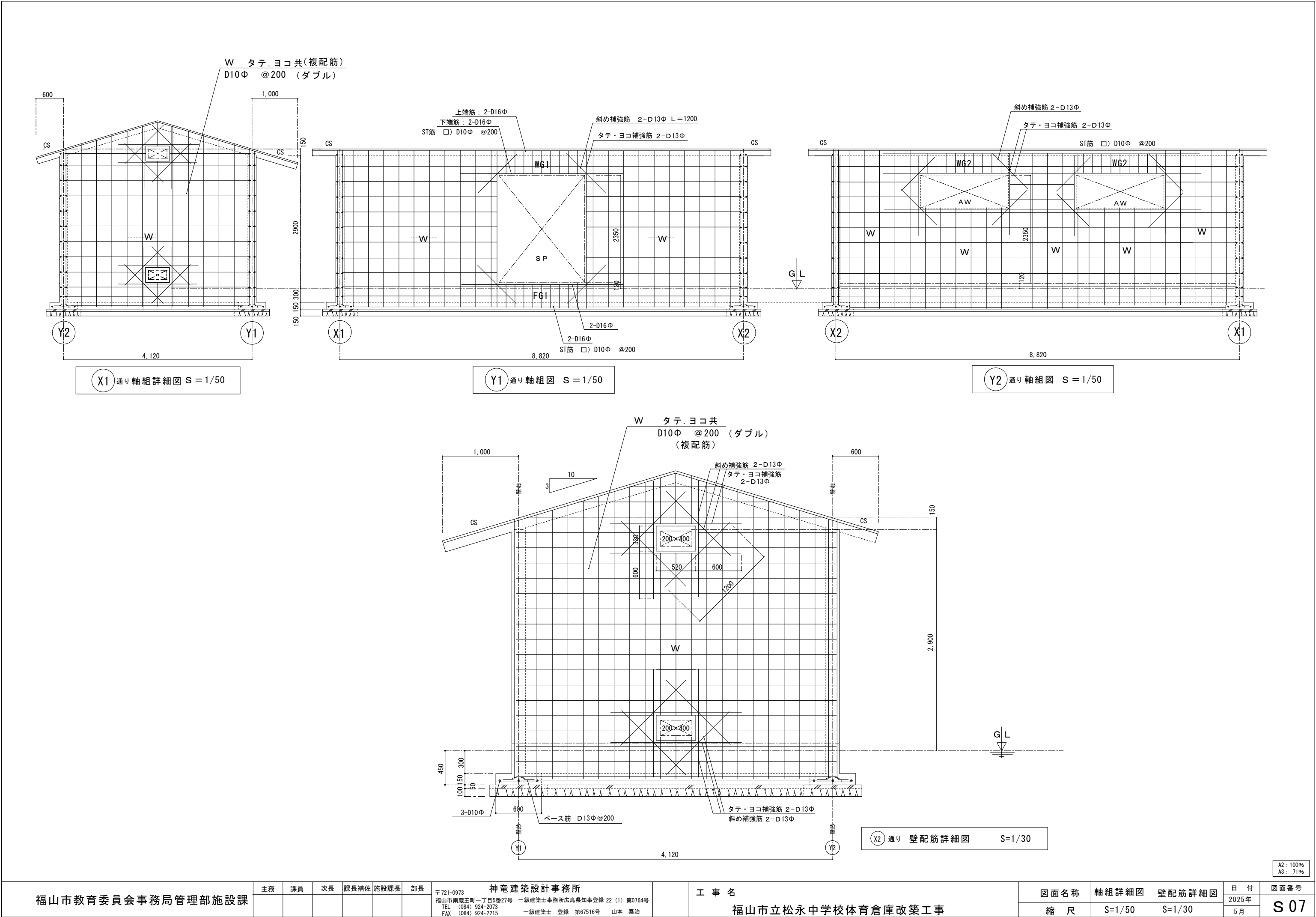
壁配筋図 S=1/30



底（CS）配筋図 S=1/30

A2 : 100%
A3 : 71%

福山市教育委員会事務局管理部施設課	主務	課員	次長	課長補佐	施設課長	部長	〒721-0973 神竜建築設計事務所 福山市南蔵王町一丁目5番27号 一級建築士事務所広島県知事登録 22 (1) 第0764号 TEL (084) 924-2073 FAX (084) 924-2215 一級建築士 登録 第67516号 山本 泰治	工 事 名 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事	図面名称	壁・屋根スラブ配筋図	日 付	図面番号
									縮 尺	S=1/30	2025年 5月	S 06



参考数量書

§ 工事名称 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事

§ 工事場所 福山市松永町二丁目 2 4 番 1 6 号

特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款 1 条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。

※ 「建築数量積算基準・同解説」 (建築工事積算研究会制定)

設 計 書

工事名称 福山市立松永中学校体育倉庫改築工事

工事場所 福山市松永町二丁目 2 4 番 1 6 号

【工事概要】

体育倉庫
構造・規模：鉄筋コンクリート造平家建て
延べ面積：36.33㎡

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
直 接 工 事 費	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

体育倉庫					
名 称		数 量	単位	金 額	備 考
仮 設		1	式		
土 工		1	式		
地 業		1	式		
コンクリート		1	式		
型 枠		1	式		
鉄 筋		1	式		
防 水		1	式		
木 工		1	式		
屋根及びとい		1	式		
左 官		1	式		
金属製 建具		1	式		
ガ ラ ス		1	式		
塗 装		1	式		
仕上工		1	式		
排 水		1	式		
産業廃棄物		1	式		
計					

体育倉庫					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
仮 設	直接仮設	1	式		
計					
土 工		1	式		
計					
地 業	一般地業	1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型 枠		1	式		
計					
鉄 筋		1	式		
計					
防 水		1	式		
計					
木 工		1	式		
計					
屋根及びとい	とい	1	式		
計					
左 官		1	式		
計					

体育倉庫					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
金属製 建具	アルミニウム製建具	1	式		
金属製 建具	銅製建具	1	式		
計					
ガラス		1	式		
計					
塗 装		1	式		
計					
仕上工事		1	式		
計					
排 水		1	式		
計					
産業廃棄物	産業廃棄物	1	式		
計					

福 山 市

体育倉庫						
コンクリート						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
捨てコンクリート	18-15-20N	1	m3			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート 人力打設 - S15～S18 - -	1	m3			
コンクリート	27-18-20N	4.9	m3			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 - -	4.9	m3			
コンクリート	27-18-20N	6.7	m3			
コンクリート打設手間	土間 ポンプ打設 50m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	6.7	m3			
コンクリートポンプ 圧送	基本料金別途加算	6.7	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		1	回			
コンクリート	27-18-20N	22	m3			
コンクリート打設手間	躯体 ポンプ打設 50m3/回未満 S15～S18 標準階高 圧送費、基本料別途	22	m3			
コンクリートポンプ 圧送	基本料金別途加算	22	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		1	回			
計						

福 山 市

[illegible]

体育倉庫		木 工				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【棚工事】						
化粧角材	90×90 4m	3	本			
化粧角材	90×90 3m	3	本			
化粧角材	45×90 4m	3	本			
化粧角材	45×90 3m	4	本			
小角材	45×50 4m	11	本			
見付材	15×160 4m	3	本			
見付材	15×100 4m	3	本			
雑巾摺	15×30 4m	4	本			
土台	45×90	9	本			
小根太	45×50	11	本			
ラワン合板	12mm	16	枚			
アンカー打ち	床・壁	1	式			
釘・金物・ボンド		1	式			
加工・取付		1	式			
運搬費		1	式			
計						

福山市

